

	重点目標	評価項目	評価	考察・改善策について
学校経営	「私たちの学校は、いい学校だよ。」と誇れる学校にするために、全職員が「和」を大切にし、力と心を合わせて教育活動を行うと共に、家庭や地域との連携を大切にする学校経営を目指す。	1 共通 学校は、危機管理体制を整え、児童生徒一人一人の命を守りきる安心・安全な学校づくりに努めている。	3.5	◎大きな事故や怪我も無く1学期を過ごすことができた。 ◎危機管理マニュアルを作成し、安心安全な学校づくりに全職員で努めている。 △教室など、校内におけるコロナ予防(感染防止)は、やや危機感のなさを感じている。 →1年以上かけて継続してきたコロナウイルス対策に対して、再度全職員と児童で確認し、感染防止を実践する必要がある。
		2 児童がふるさとや学校への誇りと愛着をもつことができるように、家庭や地域社会と学校が連携した活動を仕組んだり、教育課程を編成したりしている。	3.5	◎町探検に出かけることができ、校区や校区で働く人々に愛着をもったり興味をもったりすることができた。 ◎花ボランティアやFBCの活動に進んで取り組める児童が多い。 ◎黒田神楽や白樺踊り、町探検、まめなか運動、カワゲラウォッチング、田んぼ等の活動を通して、家庭や地域と連携した活動ができています。地域の方にゲストティーチャーとしてお話しいただけた。 →さらに、コミュニティセンターとの連携を深め、効果的に活用してふるさと教育の充実を図ることができるとよい。
学習指導	学習活動へのICT活用を積極的に推進するとともに、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図り、意見交流や学び合いを通して考えを広げ深める指導の実践に努める。	1 共通 学校は、主体的・対話的で深い学びの視点から絶えず指導改善に努めるとともに、ICTを活用した学習活動を推進している。	3.0	◎ほとんどの職員がICTを活用した授業を進んで行っている。ICTを使う環境づくりに努めている。 ◎ICTに関する研修を重ねたことで、授業等でICTを活用する機会が増え、分かりやすい学習活動ができた。 △ICTを活用できるように取り組んでいるが、そのために使い方を学ぶための授業が必要で、子どもたちが活用できるようになるのが遠く感じる。(低学年) △体育館にもWiFi環境を整えていただけたと、迎える会やひびきあい集会や式などの行事の様子をチームズで各教室でも見ることができるようになる。 △コロナ禍で主体的・対話的な指導が十分できていないとは言えない。
		2 児童一人一人が自分の考えを確かにもち、仲間に伝えたり交流したり、それらを通して自己の考えを深めたりすることができる授業づくりに努めている。	2.9	◎自分の意見を伝えようとする児童が多い。 ◎コロナ禍のため交流が減らされているが、できることを工夫して進めることができた。 △班での交流する機会を作っているが、適切な場面で行われているのか不安である。 △児童の声が届き取りづらかったり積極的に発言しようとする姿がやや不足している。 →交流の仕方をペアや小集団と形を工夫し、目的に応じて位置付けたい。発言する機会を増やし、聞き手を意識した声の大きさにも注目し、指導ができるとよい。
生徒指導	自他を尊重する豊かな心、特に相手を思いやる優しい心(思いやりの心)を育むとともに、所属感や自己肯定感を育む学級経営に努める。	1 共通 学校は、「学校いじめ防止対策基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期対応に努め、児童生徒の望ましい人間関係を築く力を育てている。	3.6	◎心のアンケートや生徒指導交流を通して全職員で早期対応ができています。 ◎管理職にも相談し、指導してもらうことができ、安心して生徒指導や保護者対応をすることができています。 ◎保健室に来室した児童から得たことを担任や管理職にすぐに報告することができています。
		2 活動を意味付けたり変容を価値付けたりして、一人一人が所属感や自己肯定感を味わい、望ましい人間関係を築くことができる学級経営や特別活動の充実を図っている。	3.2	◎担任がどの子も大切にしていることがよく分かる。個別の対応が行き届いている。 ◎自己肯定感が低い児童がいるが、仲間意識を高くし、男女仲良く取り組んでいる。 ◎トラブルなどへの対応は素早く、確実に行えている。家庭訪問や保護者来校による懇談等が積極的に行われている。 △よいこと見つけを1学期より充実させることで、自己肯定感を高めていきたい。 →よき見つけを通して、温かい人間関係作りを努めているが、さらに、よき見つけを高めるために、変容や価値の高い行動などをモデルに示していきたい。
家庭・地域との連携	家庭と地域社会との連携を大切にして教育活動を推進するとともに、ふるさとを大切に、ふるさとを愛する心を育む。	1 共通 学校は、「早寝・早起き・朝ご飯運動」を推進したり、児童生徒が町や地域の活動に主体的に参加する態度を育てている。	3.3	◎「早寝・早起き朝ごはん運動」ができるように、生き生き生活チェックを長期休業明けに行い児童の健康な生活を推進している。 ◎生き生き生活チェックや食育などから健康的な生活への意識が高まっている。 →いきいき生活チェックについて、学級だけでなくお昼の放送や児童集会など全校に伝わる場で話ができるとよい。
		2 花づくりや地域行事への参加を通して、地域の方々との絆を深め、ふるさとへの愛着を持つことができるように努めている。	3.5	◎たくさんの地域の方に花の苗をもらってもらい、地域とつながることができた。 ◎地域ボランティアさんとの協力で花作りや田んぼ作りができています。 ◎地域行事がなくなっているが、学校と連携をはかりながら進めている。 ◎花作りを軸に関係する先生方の尽力により、児童の有用感や達成感が養われている。

※各項目の評価は4を上位とする4段階評価とし、各段階は次を目安とする。

4(取組も成果も十分) 3(取組も成果も概ねよい) 2(更に取組を充実させ、成果をあげたい) 1(取組も成果も不十分)